

第17回 歯科衛生研究会

平成14年7月

講演抄録集

日時／平成14年7月17日（水）午後5時30分

会場／日本歯科大学新潟歯学部アイヴィホール

日本歯科大学新潟短期大学

歯科衛生研究会

会 長 石川富士郎

実行委員長 阿部邦昭

企画運営委員 高橋正志、宮崎晶子、三富純子、高山夕見子

庶務渉外委員 佐藤治美、片野志保、渡辺祥代、田邊智子、将月紀子

事務担当委員 入江三夫

[一般講演・講演者の方へ]

- 1) 使用できるスライドプロジェクターは2台です。
 - 2) スライドはすべて研究会開始20分前までに受付係にお渡し下さい。
 - 3) 演題・演者名など、不要なスライドのご使用はご遠慮下さい。
 - 4) スライドカローセルは受付でお渡しします。
 - 5) 受付で必ずスライドの試写をお願いします。
 - 6) 一般講演の発表時間は8分（予鈴7分で青ランプ、終鈴8分で赤ランプ）、討論時間は4分です。
 - 7) その他のお知らせ事項は当日受付で致します。
-

日 時 平成14年7月17日(水) 17時30分～18時52分

会 場 日本歯科大学新潟歯学部 アイヴィホール

<講演時間8分、質疑応答時間4分>

[開会の辞] <17:30～17:35>

座長 松田 しのぶ 先生

<17:35～17:47>

1. ヒト永久歯の最深層エナメル質の組織構造と酸腐蝕性について

新潟短期大学 ○高橋正志
新潟歯学部・口解1 小林 寛

<17:47～17:59>

2. 第1報「カリオグラム」を用いた検査方法と日本歯科大学新潟歯学部付属歯科病院における
カリエスリスク検査システムと評価について

新潟短期大学 ○田邊智子、片野志保、荒井 桂
新潟歯学部・口腔衛生 石井瑞樹、小松崎 明、末高武彦
新潟歯学部・保存2 鈴木雅也、田中紀裕、加藤喜郎

<17:59～18:11>

3. インターネットではフッ素による齲蝕予防はどの様に伝えられているか

新潟短期大学専攻科 ○渡邊亜樹
新潟短期大学 中村直樹
附属病院総診2・口外 二宮一智

座長 土田江見子 先生

<18:11～18:23>

4. 初心者糖尿病教室に参加して

新潟短期大学専攻科 ○直江明香
附属病院総診3 長澤貴子、水谷太尊
新潟短期大学 中村直樹

<18:23～18:35>

5. インプラント治療における歯科衛生士の役割

新潟短期大学専攻科 ○内山美幸
附属病院総診4・口外 金子恭士

<18:35～18:47>

6. 総合診療科4における診療環境に関する患者アンケート調査

第一報 清掃整理について

附属病院歯科衛生科 ○臼杵野衣、柴崎知子、山崎明子、坂井由紀
白井かおり
附属病院総診4 大沼典男、南部弘喜、五十嵐勝

[閉会の辞] <18:47～18:52>

ヒト永久歯の最深層エナメル質の組織構造と酸腐蝕性について

新潟短期大学 ○高橋正志
新潟歯学部口解1 小林 寛

〔目的〕う蝕予防の観点から、ヒトの永久歯の最深層にみられた特殊なエナメル質の組織構造と酸腐蝕性について検討した。

〔材料と方法〕材料として、抜去後、ただちに10%中性ホルマリンで固定したヒトの永久歯を使用した。咬頭頂を通る頬舌側方向の研磨標本を作製し、エナメル質の組織構造を偏光顕微鏡で観察した。同一標本の研磨面およびエナメル質表面にはほぼ平行な再研磨面を10%NaOClで1時間処理後、0.05N HClで3分間または2.5%EDTAで12時間腐蝕し、水洗、アルコール脱水し、臨界面乾燥したのち白金蒸着を施し、S-800型走査電顕（日立）で観察した。また、研磨標本の一部は、エナメル象牙境での断面を作製し、同様にして走査電顕で観察した。

〔結果〕研磨標本を偏光顕微鏡で観察すると、エナメル質最深層に、小柱構造が認められず、逆に成長線の構造が明瞭な層が認められた。EDTAで12時間腐蝕された研磨面では、エナメル質最深層に深い溝が観察された。エナメル象牙境での断面では、象牙質の外表面に象牙小窩の陥凹が認められ、反対側のエナメル質の内表面では象牙小窩に対応する多数の半球形の突出部が観察された。類円形の小柱断面がみられる内層エナメル質Ⅱ帯と象牙質の外表面との間の断面では、特徴的な菱面体形の結晶様構造が観察された。第3大臼歯の内層エナメル質Ⅲ帯では、U字形の小柱断面だけでなく、ニホンザルなどの狭鼻猿類にみられる楕円形の閉じた小柱断面がかなりの範囲にみられた。

〔考察〕エナメル質最深層にみられた無小柱エナメル質には、断面で菱面体形の結晶様構造が観察された点から、 hidroキシアパタイトのほか、フィトロッカイトなどの、他の種類のリン酸カルシウムの結晶が含まれていると考えられる。この無小柱エナメル質は、比較組織学的には、両生類と爬虫類の中層エナメル質に相当すると考えられる。エナメル質最深層の無小柱エナメル質はきわめて酸で腐蝕されやすい点から、この特殊なエナメル質の存在が、う蝕のエナメル象牙境での側方拡大に関連していると考えられる。第3大臼歯の内層エナメル質Ⅲ帯でみられた楕円形の閉じた小柱断面の存在は、細胞レベルでの狭鼻猿類段階への先祖返り現象と推察される。

第1報「カリオグラム」をもちいた検査方法と日本歯科大学新潟歯学部附属病院におけるカリエスリスク検査システムと評価について

新潟短期大学 ○田邊智子、片野志保、荒井 桂
新潟歯学部口衛 石井瑞樹、小松崎 明
末高武彦
新潟歯学部保存2 鈴木雅也、田中紀裕、加藤喜郎

歯科医療がキュアからケアの時代に移り変わろうとする中、齲蝕に対する予防と抑制を幹とした「カリオロジー」が注目を浴びている。特に齲蝕発症予測検査（カリエスリスク検査）は齲蝕発症に関わる要因の把握と重要度を評価するために必須といえる。

この度、日本歯科大学新潟歯学部附属病院においてもカリエスリスク検査システム（Dentocult）が導入され活用され始めた。その成果が臨床において大いに期待されることである。本システムを有効に使用するためには口腔衛生指導、栄養指導、キシリトールガムなどの摂取指導など、歯科衛生士の役割も非常に重要な位置を占めている。今回、第一報としてDentocultを使用した唾液検査法の実際、その成績ならびに問診から得られた情報から評価する、カリエスリスク判定支援ソフト「カリオグラム」について紹介する。

インターネットではフッ素による齲蝕予防はどの様に伝えられているか
新潟短期大学専攻科 ○渡邊亜樹 新潟短期大学 中村直樹 附属病院総診2・口外 二宮一智
<p>【目的】現在、加速度的にインターネット普及率が上昇している。これを受けて、医療に関する情報、知識も圧倒的な量でインターネット上を流れることになった。それらは世界的な規模での医療サービスの変化を誘発し、その結果膨大な医療情報の中から有益なものだけを収集する方法が必要になる。そこで、私たちが日常行っている齲蝕予防へのフッ化物応用についてインターネットでは、どの様に伝えられているかを検索した。そして一般利用者へ伝えられている情報内容を確認し、患者への対応方法を考える一助とすることを目的とした。</p> <p>【方法】MSN Searchを用いて「フッ素」および「歯」という語句で検索した。</p> <p>【結果】210件のページが検索された。これは125のホームページとして確認できた。その内訳は歯科医院35件、県市の歯科医師会19件、役所・保健所などの公共のサイト34件、歯科ネット、健康ネット、子育てサイト、新聞社がそれぞれ3件であった。他には歯科大学、小学校、歯磨剤企業や環境保護に関するホームページなどが検索された。</p> <p>保健所、歯科医師会、歯科医院はフッ素の有効性やフッ素塗布の公示などがほとんどであった。歯科におけるフッ素の専門サイトとしては、水道水フッ素化委員会、日本むし歯予防フッ素推進会議などがあり、これらは世界的に行われている水道水へのフッ素添加を推進するホームページであった。また、これとは反対にフッ素の歯科応用への警鐘をならすフッ素研究会、フッ素毒警告ネットワークなどがあった。</p> <p>【考察】推進派と反対派のホームページはお互いに牽制し、攻撃し合っており、一般利用者はどちらが正しいか戸惑うと思われる。フッ素使用反対派の意見は、歯科医療関係者養成機関では教わる機会がないだけに、自分自身で客観的データを多く集め、結論を導き出し、歯科医療に携わっていかなければならないと痛感した。現在WHOおよびFDIなどが奨める虫歯予防法は1.水道水のフッ素化、2.学校・幼稚園でのフッ素洗口およびフッ素塗布、3.学校等でのシーラント、4.砂糖の摂取制限、5.歯磨き（フッ素入り歯磨剤使用が条件）としている。これらの事実も踏まえ、患者への適切な対応が必要だと考えられた。</p>

初心者糖尿病教室に参加して
新潟短期大学専攻科 ○直江明香 附属病院総診3・口外 長澤貴子、水谷太尊 新潟短期大学 中村直樹
<p>現在、糖尿病患者は全国に690万人を超え、糖尿病予備軍はその倍にのぼるとされ、特に40歳以上では10人に1人が糖尿病患者といわれており、これは国民病と言っても過言ではありません。糖尿病は網膜症による失明、神経障害や糖尿病性腎症など、合併症を引き起こします。以前から、歯周病は糖尿病の合併症の一つであるとされてきましたが、患者の歯周病に対する関心は低いとの報告もあります。今後ますます増え続けると思われる糖尿病患者とその合併症を抑えるには、正しい食生活を始めとする生活管理の教育がとても重要となります。</p> <p>しかし、糖尿病の患者数に比べて専門医の数はあまりに少なく、満足できる医療を提供しているとはいえません。このような状況を解消するために、2000年から看護師、栄養士などを対象とした「糖尿病療養指導士」の資格制度が始まりました。糖尿病の療養指導などで、より良い医療サービスを提供できることが期待されています。現在の制度では私達、歯科衛生士には受験資格は認められていませんが、歯科衛生士の立場から糖尿病患者の健康に貢献できることは多いと考えます。</p> <p>今回、私達は実際に初心者糖尿病教室に参加する機会を得ました。信楽園病院糖尿病外来では、2週間の教育入院を基本としていますが、様々な理由によって入院不可能な患者に対しては、初心者糖尿病教室として2回にわたって医師、管理栄養士、看護師からなる糖尿病教室運営スタッフによる講義が行われています。現在、介護保険制度の導入にともない、歯科衛生士が歯科以外の医療スタッフと一緒に活動する機会が増えています。QOLの観点からの周囲の高い要求に答えられるよう、糖尿病を持つ患者さんについて勉強を重ね、お互いに情報交換をすることで向上をはかっていきたいと考えました。</p>

インプラント治療における歯科衛生士の役割

新潟短期大学専攻科 ○内山美幸
附属病院総診4・口外 金子恭士

<目的>

チームアプローチという言葉が、インプラント治療に用いられるようになり久しい。今日、インプラント治療の普及、確立に伴い、歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士等によるチームアプローチの重要性が強調されている。

今回、私達は、チームアプローチとしてのインプラント治療における歯科衛生士の役割について理解すべく、文献を中心とした考察をおこなったので報告する。

<方法、対象>

1983年から2001年までの学会誌、商業誌について医学中央雑誌のデータベース等を用い、インプラント治療における歯科衛生士の役割について書かれた文献29件を抽出、その内容を検討した。

<結果>

抽出した文献29件の著者別による分類では、歯科衛生士単独の著書17件、歯科医師と歯科衛生士の共著6件、歯科医師単独の著書5件、看護師単独の著書1件であった。

内容別による分類では、リコール、メンテナンスに関する文献9件、器具、器材の準備に関する文献6件、手術の介助に関する文献5件、器具、器材の管理に関する文献2件、術前メンテナンスに関する文献1件、その他2件であった。他の4件は、インフォームドコンセントからメンテナンスまで全体的に書かれている文献であった。

<考察>

チームアプローチとしてのインプラント治療において、歯科衛生士がいかに積極的に取り組んでいるかが示唆された。また、リコール、メンテナンスについて書かれている文献が最も多く、この過程での歯科衛生士の役割が最も重要であることが示唆されたが、歯科衛生士は、チームアプローチのなかで断片的に存在するのではなく、初診時から予後管理にいたり、常に継続して重要な役割を果たしていることが理解できた。

総合診療科4における診療環境に関する患者アンケート調査

第一報 清掃整理について

附属病院歯科衛生科 ○臼杵野衣、柴崎知子
山崎明子、坂井由紀
白井かおり

附属病院総診4 大沼典男、南部弘喜、五十嵐勝

診療室が雑然とし、不潔な状態であれば、来院患者だけでなく医療スタッフも不快感を持つこととなる。診療室が清潔で整理された状態であることは、患者が安心して快適に診療を受けるとともに、医療従事者らが能率良く快適に仕事を行う上でも非常に重要で、その診療室の清潔、整理整頓を心がけることは、歯科衛生士の仕事として大切なことである。そこで、来院患者が診療室内の環境をどのように捉えているかを把握することは、診療室内の現状を見直したり、環境整備を推進する上で、重要な参考になる。

診療室の環境には、診療室内や待合室の衛生、温度、湿度、照明、騒音、通風、臭気などが上げられるが、今回は、診療室の衛生状態に着目し、待合室から受付、診療室内の清掃、整理整頓について取り上げた。すなわち、今回われわれは、総合診療科4における来院患者が、医療従事者とは違う立場からの視点、観点で、普段どのような場所の清潔、整理整頓状態を気にしているのか、また気になる度合いについて意見を調査・検討することを目的としてアンケートを行った。

アンケートは、平成14年6月17日から21日までの期間中に日本歯科大学新潟歯学部附属病院・総合診療科4に来院した患者を対象とし、診療後にアンケートの協力を求め、承諾を得てから無記名で自記方式により実施した。

質問内容は、性別、年齢、当病院への通院期間、他医院への通院軒数を記入の後、1. 待合室 2. 受付周辺 3. 診療室内通路 4. ユニット内の清掃、整理整頓状態を、3段階（全く気にならない、少し気になる、非常に気になる）で評価してもらった。また、アンケート用紙にユニット写真を添付し、写真中の記号の中から目のいく気になる場所を挙げてもらう記述式とともに、指定した場所については清掃、整理整頓状態の気になる度合いを3段階で評価してもらった。今回、期間中の来院患者315名中、協力の得られた150名（約50%）のアンケート内容について、その結果と意見をまとめ考察したい。

次回の「歯科衛生研究会」は平成 15 年 2 月下旬（水曜日）に
開催する予定です。

多数の演題の申し込みをお待ちしております。
